

つながりたのしむ あそび集

- ここでは、市内幼稚園・保育所等から集めた実施例を紹介しています。園庭でできるあそび、近くの公園でできるあそび、遠足でできるあそび、様々なシチュエーションでの取組事例を掲載していますので、ぜひ参考に見てください。

自然レストラン…P.1、2
季節のあそび…P.2
自然のビンゴ…P.3～8
草花であそぼう…P.8、9
葉っぱくらべ…P.10
葉っぱでじゃんけん…P.10
さいころ色あつめ…P.11

むしめがね探検隊…P.11
バランスあるき…P.12
葉っぱの素材を活かした制作…P.12
お米を育てる…P.13
氷の島…P.14
3R大作戦…P.15

実施例（自然レストラン）

年齢	4歳児	人数	17人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

- ・公園にどんぐりを100個見つけに行こうと誘う。
- ・子どもたちから出てきた食べ物を形にできるように事前に準備をする。
- ・ピザ作り用にピザ型の段ボール、どんぐり、枝、ボンドをテーブルに設定する。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・それぞれのピザ型の段ボールの上にボンドでどんぐりを付けた後、チーズをかけようと、園庭に落ちている紅葉した葉を拾ってきて、ピザにつけるようにする。
- ・どんぐりで何か美味しいものを作らないか相談すると、カレーライス、ご飯、ピザ、ハンバーグなどのアイデアが出る。
- ・どんぐりの形からお肉やエビに見立てたり、枝はピーマンに見立てたりしている。
- ・園庭に落ちている葉を見ながら、チーズにするからと黄色の葉を探すがあった。

◆気づき

- ・紅葉した葉は、黄色や赤などいろいろな色があることを感じていた。
- ・どんぐりの種類が違くと形や色が違うことを知る。

◆工夫したこと

- ・自分の作りたままに、どんぐりなどの素材を自由に使えるようにした。
- ・制作後、美味しいピザに見えるようにディスプレイを工夫し、ピザの名前や値段をそれぞれ自分で決めて表示した。



年齢	4歳児	人数	18人	季節	冬	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

- ・園舎裏に葉っぱを拾いに行くため、危険な場所がないか確認した。
- ・紙皿、紙コップ、レストラン用テーブルを用意

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・発表会でお店がテーマの劇ごっこを行い、お店屋さんごっこに発展する。園庭でもお店屋さんごっこを楽しめるように、自然レストランに誘う。
- ・保育者が「丸くて茶色だからハンバーグにしよう。」など作って見せると、子どもがイメージを膨らませ「野菜があるといいんじゃない?」と、声があがる。
- ・3人で1つの料理を作ることを伝え、材料を探しに行く。色を見て「これは辛いよ。」「ケチャップだよ。」「(赤い紅葉)、ちぎった形を見て「(細い)ポテトだよ。」などと話しながら作った。
- ・できあがった料理の名前を聞き、プレートに付けて並べると「飲み物があったほうがいい。」と声上がり、紙コップを渡すと作り始めた。
- ・細い莖はお箸やストローに見立てていた。互いの作品を見合い、食べ合う姿を見て、他クラスの子も興味を持った。

◆ふりかえり

色や形からたべものや味までイメージを膨らませ、グループでそのイメージを共有し、「じゃあ私はたまご探さね。」などやり取りをしながら作り上げていた。また、作ったもので遊びながら、飲み物や食具を作り、さらにレストランの招待状やお金などのイメージにあわせて葉っぱを探してアイテムを作り、他クラスを巻き込んで数日間楽しんだ。



実施例（自然レストラン）

年齢 3,4,5歳児 人数 33人 季節 秋 場所 公園

実施内容

◆準備

- ・秋のピクニックへ出かける前に、子どもたちに森の妖精から届いた手紙を読む。「秋を見つけに来てね」
- ・子どもたちが集めたもので遊べるように、事前にテーブルクロス、紙コップ、紙皿、フォーク、スプーン、お弁当カップなどを準備する。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・自由に公園内を探検し遊ぶ中で、見つけたものを手に取り集める。渋柿やどんぐり、草花、落ち葉に触れる。
- ・たくさん遊んだ後、子どもたちはレストランごっこが出来るコーナーに集まり、自分が拾ったものを使って料理を作る。
- ・お友だちが作っているものを真似たり、お友だちにあげたりとやりとりを楽しむ。

◆ふりかえり

秋の自然を感じられる公園に出掛け、その中で子どもたちが触れたもの、見つけたものを具体的な遊びの中で表現して楽しむことができた。



実施例（季節のあそび）

年齢 5歳児 人数 17人 季節 春 場所 公園・室内

実施内容

◆準備

散歩に行き、こいのぼりを染めるための花(タンポポとつつじ)を探し、摘む。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・「つつじ」という名前を覚えて、摘むことを楽しんでた。
- ・摘んできた花でこいのぼりを作る布を染める。
- ・模様をつけるのに輪ゴムで布をつまんで絞り染めに挑戦する。
- ・こいのぼりの目を押し花で作る。
- ・落ち葉のスタンプでうろこを作る。

◆気づき

- ・花に水を入れて染めるが、何度も試すうちに水の量が少ない方が染まりやすいことに気が付き調節してやろうとする姿が見られた。
- ・つばきはよく染まるがタンポポはあまり染まらないことなど実体験を通して知ることができた。

◆ふりかえり

自分たちで実際に経験しながら自然の不思議さや面白さを感じられるように進めた。こいのぼり作りという活動を通していろいろな遊びを楽しむことができた。



実施例（自然のビンゴ）

年齢	4歳児	人数	13人	季節	冬	場所	遊歩道
----	-----	----	-----	----	---	----	-----

実施内容

◆準備

- ・事前に保育士がビンゴカードを用意しておく。
- ・子どもたち一人一人が探検隊となり散歩に出発。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・ビンゴカードを持つことで、いつものお散歩がよりワクワク感でいっぱい。
- ・見て、触れて、においをかいで…五感をフルに使い、日頃、あまり目にとまらないような木々や草花、自然だけでなく、家や店の装飾、遊具、人の姿に気づき、発見を喜び、教え合う姿があった。
- ・「お花はいいにおい」「葉っぱは寒くなると色が変わるよね」「ねこじゃらしも緑と茶色があるんだね。触るとふわふわで気持ちいい」「てんとう虫は赤くて丸い」園に戻った後の振り返りでは、一つの項目でもたくさんの発見があったこと、**季節の移り変わりをみんなで共有**することができた。



◆ふりかえり

実施後、「自分でカードを作りたい!」と話しているので、今度は子どものアイデアを聞きながらカードと一緒に作成し、継続して楽しんでいきたい。

年齢	4歳児	人数	23人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

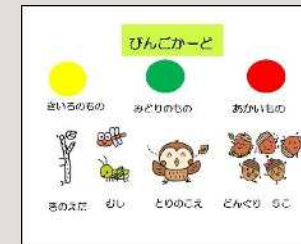
- ・事前に遠足の下見で公園に行き、秋の自然をもとにビンゴカードを作成する。
- ・遠足の前日に子ども達にビンゴカードの説明をする。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・当日も遊び方を説明する。ビンゴカードは1人1枚渡し、発見したらシールを貼ってもらう。
- ・どんぐりや木の枝はたくさん落ちていたので、子ども達は「どんぐりいっぱいある」「すぐみつけちゃった」と保育者や友だちに言って喜んでいた。
- ・1人でじっくり探す姿や、「〇〇あったよ」「えっ、どこに?」等と、友だちと声を掛け合いながら探す姿がみられた。
- ・「鳥の声聞こえないね」と友だち同士で話す姿があり、保育士が「そうだね・・・」と応えると、「向こうに行けば聞こえるんじゃない?」と言って、奥にある林の方へ聞きに行った。「聞こえるー」と発見した子どもの声に他の子どももやってきて、殆どの子が集まり鳥の声を聞いている姿が見られた。

◆工夫したこと

- ・赤い物や黄の物は、自然物と限らず公園の遊具など自分がいいと思うものも探せるようにした。
- ・ビンゴカードは、ジップロックで作ったお散歩バッグに貼り付け、**見つけた自然物をその中に入れることができる**ようにした。



実施例（自然のビンゴ）

年齢	3歳児	人数	30人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・公園に到着後、30人を4グループに分け、グループごとに自然ビンゴカードで遊ぶ。
- ・行き慣れている公園ではなかったの探しながらいつもよりワクワクする姿が見られていた。
- ・カードの対象物を探しながらも、カードには載っていない自然も見つけ楽しんでた。
- ・見つけられない子には一緒に探してあげたり、自分の見つけたものを見せてあげたりするなどのやり取りが見られていた。
- ・鳥の鳴き声を聞いて取りを見つけたり、葉っぱのにおいをかいでみたりなど、**五感も使って遊ぶ**ことができていた。

◆工夫したこと

カードの内容を見つけやすい4種類にしたことで、自分たちで見つけ、達成感を味わいながら楽しめていた。



年齢	4歳児	人数	25人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

- ・秋の遠足で実施。二つ折りの画用紙の半分はビンゴカード、半分はジップバッグを付けておく。
- ・ビンゴは「あかいはっぱ」「そらのいろ」「どんぐり」「きのねっこ」4マス。空の色や木の根っこは、見つけたら保育者に自分の言葉で伝えシールを貼ってもらい、はっぱやどんぐりはジップバッグにいれるようにした。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・公園に着くと、仲の良い友達同士で早速、探索に向かう。「それ、どこにあった？」等情報を共有しながら見つけることを楽しんだ。
- ・空の色は、当日曇っていたため、「くろ?」「はいいろ」「きらきらしていない」など、木の根っこは「なんかかたい」「ごつごつしてる」など自分の知っている言葉を考えながら話していた。

◆気づき

子ども同士で教え合ったり、一緒に探したり協力しながら探しているが、保育者に伝えに来るときには**自分の言葉で表現しよう**と考える姿があった。



実施例（自然のビンゴ）

年齢	4歳児	人数	50人	季節	春	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

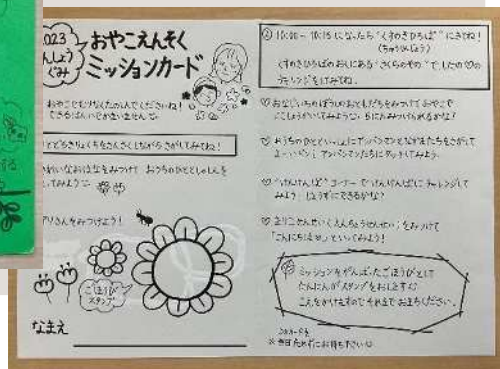
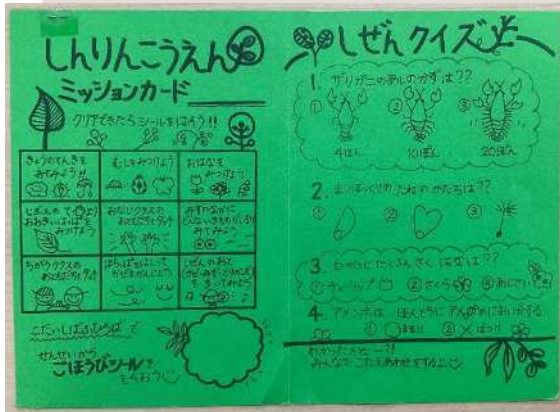
前日までに「シールラリーカード（シール付き・マス目は9つ）」を配布し、各クラスでビンゴの説明、導入を行い興味や意欲を高める。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・当日は親子遠足。各親子はゴール地点に向かうまでの間でシールラリーにチャレンジする。
- ・ゴールまでの各所に教職員を配置し説明の補足や、ヒント、交流（親子、子ども、教職員）のきっかけを作りながら進めていく。
- ・親子で楽しむだけでなく、子ども同士と一緒にミッションに参加したり、親子同士の交流のきっかけにもなっていた。

◆工夫したこと

- ・年度初めの交流（親子、子ども、教職員）の場として企画していたので、自然以外にも触れ合いのミッションを取り入れた。
- ・事前に下見へ出向き、その公園の自然に合わせたミッション（ビンゴカード）を作成した。



年齢	3,4歳児	人数	11人	季節	秋	場所	公園
----	-------	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

季節や公園に合わせたビンゴカード（16マス）を作成し、様々な自然に目を向け興味を促す。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・公園内を散策しながら見つけた物を報告しあい丸をつけていく。
- ・時間を決め探せた物を発表しあう。
- ・ビンゴになって行く過程も、ワクワクしている気持ちが伝わってきた。

◆気づき

- ・普段見過ごしがちな草花の形の違いや、感触、臭いなどビンゴカードと見合わせながら様々な発見をし、それを子どもたち同士で話し合う姿が見られた。
- ・その日だけではなく園庭や他の散歩時にも様々な自然に興味を持ち引き続き探す姿が見られた。

実施例（自然のビンゴ）

年齢	5歳児	人数	18人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

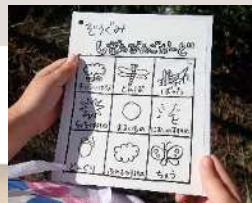
- ・実施する公園の下見をし、季節・環境・年齢発達に合わせた内容を検討する。
- ・『つながりたのしみあそび集』P8の例を参考に、オリジナルのカードを作成する。（カードの紐は首にかからないよう斜め掛けにできるようにした。カードの左下に穴をあけ紐を通すことで、カードを肩にかけたまま内容を随時確認したり、両手を使い遊ぶことができた。）

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・子どもたちを集め、活動内容を子どもたちに説明する。
- ・小グループで、職員と公園内を散策する。（どんぐりなど答えのはっきりしているものと、ふわふわするものなど答えがひとつではないものをバランスよく混ぜることで、前者はその発見を友だちとわかりやすく共有することができ、後者は感じた事を伝え合うことで友だちの考えにも触れることができ、より一層楽しみが広がっていった。また、ギザギザの形をした葉っぱなどちくちくしていそうに見えるものも、実際に触ってみたら柔らかかったなど、実際に見たり触ったりすることでの発見は、自然に触れて遊ぶおもしろさの醍醐味であった。）
- ・下見の時にはたくさん飛んでいたトンボが、当日はなかなか見つからなかった。子どもたちは「トンボはススキが好きなから、ススキがたくさん生えている方に行ってみよう。」「今日は暑いからおうちに帰っちゃったのかもしれない。」など、考えを伝え合ったり、推測を楽しんでいた。

◆気づき・課題

- ・保育者が子どもの気づきに寄り添い共に楽しむことで、人と自然の繋がりだけでなく、友だち同士のつながりも深めることができた。また、地域の公園の魅力を知ることは、地域への理解と繋がりが深まった。
- ・絵カードにより視覚的にわかりやすく、参加しやすくなり、子どもたちが主体的に参加することができていた。集団において自然の中で五感を使って活動することで、対話が生まれ、子どもたちにとって、**実体験を伴う深い学び**となっていた。



年齢	5歳児	人数	25人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

遠足に行く前にビンゴカードの説明し、当日カードをぶら下げて出発。（ビンゴカードは9マスで、虫や草など自然の物やチクチク、ふわふわなど抽象的な物。あてはまる物を見つけて職員にスタンプを押してもらおう）

◆当日の活動、子どもたちの様子

予定では、公園に着いてから実施しようと考えていたが、途中の道にたくさんあることを気づき、早めにスタートした。見つけると大きな声で友だちを呼び、カードを見せ合ったり互いに共有していた。

◆気づき・課題

- ・ふわふわ、チクチクなど抽象的な物を見つけるのはその子の感性が現れる。探せずに困っている姿が見られた。「間違いはないんだよ」と伝え、見つけた時は共感していった。
- ・抽象的な物を見つけるには経験も必要だと感じた。すべてに正解があるわけではなく、色々な見方感じ方があるということ伝えていく。



実施例（自然のビンゴ）

年齢	5歳児	人数	24人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

保育士が五感を使って発見した自然をもとにビンゴカードを作成する。

◆当日の活動、子どもたちの様子

4人1グループで協力しながら、自然を探索していた。なかなか見つからない虫があったが、他のグループにヒントをもらい見つけることができた。

◆気づき・課題

- ・グループごとに行ったため、自然を見つける楽しさを感じるとともに、友だちと協力する喜びも感じられていた。普段の遊びだけでは気づかないような音や香りに注目する姿があり、五感を使って楽しむことができた。
- ・正解が一つではないものをビンゴカードに取り入れることで、一人ひとりの見つけようとする気持ちがより意欲的になると感じた。

年齢	4歳児	人数	33人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・「しぜんビンゴカード」を個々に持ち、探し合う事を目的とし、友達・先生と力を合わせて楽しんだ。
- ・普段は個々の活動が多いが「見て、みつけた」「あとは、何をみつける」と、年中組なりに力を合わせ達成していく姿がみられた。
- ・ビンゴになって行く過程も、ワクワクしている気持ちが伝わってきた。

◆ふりかえり

- ・見つけた自然物を独り占めにするのではなく、「ここにある」「みつけたよ」と、声を掛け合い、力を合わせて達成することに気づく良い機会となった。
- ・共有する楽しさも知れたと感じる。

実施例（自然のビンゴ）

年齢	4歳児	人数	16人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

前日までにスタンプラリーのプレスレットを作成する。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・当日遊び方の説明をする。1人1つのプレスレットを身に着け、公園内で探す。
- ・見つけた際、職員が子どもの見つけたものを確認しながらシールを貼る。
- ・友だちと見つけたものを見せ合ったり、見つからずにいる子にどこにあったか教え合う姿が見られた。

◆気づき

マスの中に「みどりのもの」「きいろいもの」等抽象的なものをいれたことで探す巾が広がり、葉っぱや木の実等子どもたちによって違うものが入っていた。

◆工夫したこと

遊んだ場所に「ねこじゃらし」が生えていたので、マスの中に「ねこがつくもの」とクイズ形式の物を入れて、子どもが考えられるようにした。

◆ふりかえり

お題の物を見つけるのを楽しんだり、同じ色でも形が違うことに気づいたりする姿があった。どんぐりの形の違いなど図鑑で調べたり、**自然物の制作にもつなげられそう**である。



実施例（草花であそぼう）

年齢	3歳児	人数	11人	季節	夏	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

栽培していた枝豆を収穫し、調理してもらう予定だったので、豆を取った後の葉を使って水遊びの素材にして遊ぶ。

◆当日の活動、子どもたちの様子

タライに枝豆の葉を入れておくと、「水入れて」と言って、保育者にホースで水を入れてもらい、葉がグルグル回る様子を楽しんだり、バケツに葉を集めたり、タライからペットボトルに水を移して「葉っぱジュース」作りを楽しむ。

◆気づき

- ・葉の入ったタライにホースで水を入れると、葉が回り始めるのに子どもが気づき、回る様子を見たり、手を入れて流れを感じる子がいた。
- ・ペットボトルに入れてジュースを作った後は「ジュース屋さんです」と友だちとごっこ遊びを楽しむ姿が見られた。

◆工夫したこと

収穫した枝豆の調理までの時間を、葉を使って遊び、**調理への期待感**を持てるようにした。

実施例（草花であそぼう）

年齢	3歳児	人数	26人	季節	冬	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・近隣の公園にお散歩に行く。道中ではレモンやみかん、柿がなっていてたくさんなっていることに喜んでた。
- ・公園で落ち葉を拾ったり、落ち葉をかき集め、かけ合いっこをする。
- ・たくさんの落ち葉が降ってきて何度も何度もかけ合いっこを楽しむ。一人で抱えて落ち葉の山をパッと空中に投げ上げたり、友達と掛け合いっこをしたり、複数の友達と担任に落ち葉をかけたりして楽しんでた。
- ・子どもから「落ち葉を集めよう！」の声がかかり、落ち葉の山をみんなで作る。たくさん集めると大きくなり「大きくなったよ」と喜ぶ。

◆気づき

いろいろな形の落ち葉があることや、軽くてたくさん抱えることができること、落ち葉のにおいなどを体感し、掛け合いっこを通じて友達とその体験を共有することができた。



年齢	3歳児	人数	26人	季節	冬	場所	室内
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

11月の遠足でたくさんのどんぐりを拾う。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・カクトのついているもの、とがった形や丸い形など、自分なりに気に入ったものを集めて喜ぶ。
- ・粘土のコーナーにどんぐりの入った容器を置いてみるとどんぐりを使ってドーナツやロボット、動物、リボンを作ったりと各児がイメージを広げて繰り返し楽しむ姿が見られた。

◆気づき

植物を自分で見つけて集めたり、つるつる、とんがっている、まあるいなどの対象物の形の特徴に気づいたり、植物を使って作る楽しさを味わうことができた。



実施例（葉っぱくらべ）

年齢	3歳児	人数	13人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

- ・散歩出発前に前日公園で拾った葉を見せて、色や形、大きさについて子どもたちと話す。
- ・道中も葉っぱに興味をもてるよう声を掛ける。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・公園に着き、前日の葉っぱを見せ、同じ色の葉っぱを見つけるよう伝える。
- ・帰園後、集めてきた葉っぱの大きさ比べをして掲示する。
- ・葉っぱの色に気付き、発見を友達や保育士と共有していた。
- ・同じ色の葉っぱでも、大きさや形が違うことに気付いていた。

◆工夫したこと

複数の公園に行き、葉っぱが探せるようにした。（場所によって、葉の変化に気付きやすい）

◆ふりかえり

葉っぱ集めからどんぐりや虫に興味広がった為、葉っぱだけに限定せず行うのも楽しさがあると感じた。

実施例（葉っぱでじゃんけん）

年齢	4歳児	人数	17人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

前日に「おちばであそぼう」の絵本を子どもたちに読み、落ち葉への興味・関心が持てるようにした。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・当日は、職員が3種類の落ち葉（2つ穴が開き、顔のように見える葉／先が切れてチョキの形に見える葉／ハッキリ2色にわかれている葉）を拾い、子どもたちに「今から宝探しをします。ここに用意した葉っぱと同じ葉っぱを探してきてください」と声をかける。
- ・場所を移動して、「これから落ち葉じゃんけんをします。自分でグー・パー・チョキの葉っぱを探してきてください」と声をかけ、それぞれを見つけたあと、ペアになって落ち葉じゃんけんをする。
- ・3種類の葉っぱ探しは、見つける度に「先生、あったよ～」と嬉しそうに報告してきていた。一方で、2つ穴の葉っぱやチョキの葉っぱは、見つけるのが難しく自分で作った葉っぱを持ってくる子もいた。
- ・落ち葉じゃんけんは、パーの葉っぱを探すのに苦労しており、時間内に見つけれなかった子は、グーとチョキだけでじゃんけんをしたが、それでも楽しそうだった。

◆気づき

2つ穴の葉っぱは、翌日以降も園庭で見つけると「先生、あったよ～」と身の回りの自然に目を向けている姿が見られた。

実施例（さいころ色あつめ）

実施例（むしめがね探検隊）

年齢	4歳児	人数	29人	季節	秋	場所	公園
----	-----	----	-----	----	---	----	----

年齢	4歳児	人数	32人	季節	春	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

実施内容

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・遠足で秋探し（色）をした。
- ・少し色が違ったり、ほかにも色があったりすることも発見していた。
- ・いつも遊びに来ている公園で新しい発見がたくさんあり、面白がっていた。

◆工夫したこと

- ・さいころではなくカードにしてパウチをし、リボンを付けかけられる形にした。
- ・色も秋色を意識して作成した。

◆ふりかえり

- ・秋色以外の色も発見していた。
- ・いつも遊びに行く公園だったが、**視点を変える**ことで楽しさを感じていた。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・園庭に虫が集まり始めると、虫眼鏡や双眼鏡を作り虫探しが始まった。
- ・捕まえた虫を飼育ケースに入れて観察。図鑑を見たり話を聞くうちに生態に興味を持ち始めた。
- ・だんご虫が実際どのように動くか確かめる実験が始まる。自分たちで迷路を作りだんご虫を観察するうちにクラスで飼育していたカタツムリの動きにも興味を持ち始めた。
- ・拡大鏡を使って観察。足の動きなど細部までよく見えることで驚く姿や、年少組の子どもたちに見せる姿が見られた。

◆気づき

- ・観察する中で、だんご虫の赤ちゃんが生まれたため、拡大鏡でさらによく見ていた。自分たちでいろいろなことを発見し、大人のだんご虫と赤ちゃんのだんご虫の違いなどを話していた。
- ・カタツムリの動きを見て、だんご虫をいろいろなところで歩かせ、タコ糸を張って逆さで歩く様子に驚くなど身近な**生き物に触れながら探求**する姿が見られた。



実施例（バランスあるき）

年齢	5歳児	人数	13人	季節	冬	場所	室内
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

- ・3グループに分ける。
- ・ルールを説明する。
- ・1人1回 歩く練習をする。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・ゆっくり本が落ちないように歩くと負けてしまう事に気がつき、どうすれば勝てるかをグループ毎に話し合っていた。
- ・落ちた時は丁寧に乗せ直さないとまたすぐに落ちる事に気づいた。
- ・本が落ちたらすぐに拾えるように、歩く人の近くにいるように工夫していた。

◆工夫したこと

ゲームを2回行い、頭の上ののせるものをブロックに変えた。

◆ふりかえり

- ・グループ毎によく協力し助け合いゲームを進めていた。
- ・負けても、「〇〇くんのせいだよ」等と責める子はいなかった。

実施例（葉っぱの素材を活かした制作）

年齢	3歳児	人数	17人	季節	秋	場所	公園・室内
----	-----	----	-----	----	---	----	-------

実施内容

◆準備

散歩へ行く前日に「落ち葉を使って制作をするから落ち葉拾いに行こう」と伝えた。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・雑木林に着くと「いい葉っぱがあるよ」「これきれいな黄色だね」「見て～これは赤いよ」「これさっきと形が違う」と気付いたことをつぶやきながらどんどん葉を拾う。
- ・葉を探しながらオオスズメバチのバラバラになった死骸やみみずを発見。しばし落ち葉拾いは中断されるが、特に普段間近で見られない蜂の観察を楽しむ。
- ・葉をライオンのたてがみにする為、まずはライオンの顔型の紙に顔のパーツをクレヨンで描く。それを画用紙に貼りその顔の回りにボンドで葉を貼る。葉に隙間がない位密に貼る子、葉の色を選びながら貼る子、大きな葉を選んで短時間で完成させる子等いる。

◆気づき

場所を変えると葉の色や形が違うことに気づき、そこに植わっている木の違いに気付いた。



実施例（お米を育てる）

年齢	5歳児	人数	30人	季節	春～冬	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	-----	----	----

実施内容

◆準備

5月、JAに申し込みバケツ栽培のみをもらう。



◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・5月、もみから観察画を描いていった。「どんな色かな」「どんな形かな」と伝えながら描くということを繰り返し伝えた。すると細かいところも良く見るようになった。
- ・9月、花が咲く瞬間を見逃さず観察することができ、ボウフラよけのメダカを放ち、トンボがヤゴを産み、稲を刈った後は1つのバケツを残し、ヤゴを育てた。
- ・10月、案山子も作り、立てたときはちょうどすずめが飛んできて、お米を食べられる危機感を感じ大きな声で追い払ったり、防鳥ネットの隙間を気にしたりする姿に結び付いた。
- ・脱穀や精米も「大変」と言いながらも頑張っていた。
- ・12月収穫したお米をおにぎりにして食べた。白米に混ぜて炊いたことで「自分たちの育てたお米だ！」と喜んで食べていた。

◆気づき

収穫したお米をおにぎりにしたことでご飯の様子やお米の数を数えるなどでき、**食の重みを手のひらで感じる事ができた**と思う。同日に観察画をまとめたので振り返りもしながら口に入るまでの時間の長さやありがたみの思いを感じる事ができた。



年齢	5歳児	人数	21人	季節	春～冬	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	-----	----	----

実施内容

◆手順

田植え（5月）→稲の開花（夏）→稲刈り（秋）→すり鉢で脱穀（11月）→おにぎり作り（11月）

◆当日の活動、子どもたちの様子

1人2～3個ずつ稲を植え、夏の間も友だちと水やりをし、生長を楽しみにする姿が見られる。



◆気づき

- ・水を上げないと枯れてしまうことに気づき夏の間水やりを頑張る姿があった。
- ・稲刈りをし、脱穀をする際、お米が入っていないものも多く「スズメに食べられちゃったんだね」「おいしかったのかなあ」と言いながら脱穀する様子も見られた。

◆ふりかえり

自分たちの手で育てたお米を使って実際に一人一人おにぎり作りをし、食べてみる機会を作っていくと、大喜びだった。育てたものを味わって食べる喜びにもつなげることができた。



実施例（氷の島）

年齢	5歳児	人数	20人	季節	冬	場所	室内
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

- ・ペンギンと氷の山の絵を使用し暑さで氷が溶け、ペンギンが住むスペースがなくなっていく様子を見せる。
- ・ペンギンになり新聞紙を氷に見立ててその上に立ち、氷が溶けて面積を減るという遊びの説明をする。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・何とか新聞紙の上ののっけいようとかつつきはみ出ないように声をかけあっていた。
- ・どんどん小さくなる氷の島にとうとう誰もいなくなり残念がっていた。

◆気づき

- ・絵で見たペンギンと同じと気づいていた。
- ・どうして氷が溶けるのか？という質問に「排気ガス等で地球があたたかくなっている」と答えた子がいて「近い距離や急がないときは歩くといね」という話になった。

◆ふりかえり

- ・ゲーム感覚でみんなが残ろうと協力し合っていた。
- ・温暖化について子どもが思った以上に疑問を持ち、それに対して知識・意識をもって、自分達のできることを考えられた。



年齢	4歳児	人数	28人	季節	冬	場所	室内
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

2〜3名のグループになり、氷に見立てた新聞紙を用意する。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・10秒数え、新聞紙から落ちないように立つ。半分に折って徐々に小さくしていく。
- ・どうしたら新聞紙から落ちずに立っているかを、グループごとに話し合っていた。
- ・片足立ちやつま先立ちなど工夫をしている姿が見られた。また、おんぶや抱っこをして支え合っているグループもあった。

◆気づき

今年度、園内の取り組みのひとつとしてSDGsについて考えてきた。このクラスでは地球温暖化が及ぼす影響として、氷上で暮らす動物の影響を考察してきた為、今回の遊びの中で氷が解け、生活スペースの縮小を体験し、生活のしにくさを体感できたようだ。日常生活を送る中で、温暖化に対して気を付けることを再確認することができた。

◆ふりかえり

グループごとに意見を出し合い、実践している様子が見られた。普段の遊びとは違い、**近距離で友達と触れ合うことができ、喜びながら楽しく参加**していた。



実施例（3R大作戦）

年齢	5歳児	人数	24人	季節	春	場所	室内
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・園の用務員から年長児向けに、ごみの分別・リサイクルを伝える集会を開催。なぜ分別が必要なのか視覚的にもわかりやすく伝え、実際にクラスで出た紙や容器等を子ども達と一緒に分別する。子ども達は興味津々な様子で集中して話を聞き、「プラごみ知ってる～」など反応を見せている。
- ・集会後も、園や家庭で手にした遊具や容器の素材を知ろうとしたり、観察してプラマークを見つけると嬉しそうに「これにもプラマークあったよ」など盛り上がる様子も見られた。
- ・遠足でも、公園のごみを拾い集め分別する活動をゲームとして楽しく取り入れると、その後の散歩でも、ごみを見つけると自然に拾う姿がみられた。
- ・ごみをリサイクルするという視点で、空き箱や広告用紙、画用紙の切れ端、使わない毛糸等を利用し、誕生日プレゼントのメダルを全園児分作成。家庭にも要らなくなったリボンを呼びかけ集めることで、SDGsへのアピールに繋がった。

◆ふりかえり

- ・ごみ箱の表示をよく見て捨てようとしたり、**園外でもゴミ拾いを自然に行う姿がみられ、ごみ分別への関心や意識の育ち**を感じられている。
- ・空き箱や家庭内の不要な物を再利用し、プレゼントとして子どもを通して各家庭へ還元することで、リサイクルやSDGsの活動を**家庭へもアピール**できた。



年齢	3,4,5歳児	人数	10人	季節	冬	場所	室内
----	---------	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・リサイクルについて話をする機会を設ける。「余った紙も、こう切ればハートになって飾れるよ」「名前を書けば、落ちていても持ち主にすぐ渡せるからゴミにならないね」などの意見があがった。
- ・使用後の紙は、他の紙に生まれ変わることを伝えると、分別に意欲的になったり、床に落ちた小さな紙や、残った紙の切れ端を見つけて拾う姿が多く見られた。
- ・リサイクルへの意識が高まり、職員にどこへ分別すればよいか尋ねる姿や、「なくさないように名前書いて」などと伝えてくる姿もあった。

◆気づき

リサイクルとは何か、分別の大切さと向き合うことで、一人ひとりが自分の使う物を大切にしよう・無くさないようにしよう、という意識に変わってきたと感じる。

◆ふりかえり

園内で行っていることを保護者にも伝えて**各家庭でもそういった取り組みが出来るように**、園での活動の中でモノを大切に使う・最後まで丁寧に使う意識を高められるよう伝えていきたい。